

話題がいっぱい！
なかゆくい



2/23(金) 今こそ発揮！ シニア世代の活力を！

「地域の子育てに活力あるシニアの社会参加を」をテーマに第41回浦添市社会教育研究大会を開催しました。浦城っ子児童センター^{やまだてるこ}ばかぼかステーションで子どもたちに食育活動をしている山田輝子^{なかいようこ}さんや裏千家茶道を小中学校で教えている仲大洋^{くしげんなおこ}さんが、人権の日に中学校で詩の朗読をした具志堅直子^{くしげんなおこ}さんが活動を発表。参加者から「子どもたちのために頑張る姿に感銘を受けた」「聞いた話を今後いかしたい」と声がありました。その後、地域コーディネーターも紹介され、活動の担い手の増加に期待が高まりました。



3/11(日) 美術館でランプシェード作り！ 展示室を華やかに飾る

漆をもっと身近に感じてもらうと、漆器に描かれる定番の模様を切り絵にしてランプシェードを手作りする体験教室が浦添市美術館で開催されました。参加した子どもたちは、使い慣れていない刃物の扱いに苦戦しながらも、お父さんやお母さんに手伝ってもらいながら、最後まで熱心に作り上げました。完成したランプシェードは、同日館内で開催された音楽ユニットRyutyのコンサート会場を華やかに優しく照らし、癒しの音楽と共に訪れた来場者の目を楽しませました。



2/17(土)～3/10(土) こだわりながら楽しむ、男の底力アップ

『暮らしを楽しみながら、いざという時に役立つ知識や技を身につける』をテーマに中央公民館が男の底力アップ講座を開催しました。男性の家事・育児参加応援を目的に、地域資源を活用しながらたき火でコーヒー焙煎やパンを焼いたり、カーミージーで採れたアーサを使ってそばを作るなどして、いざという時に身近にあるもので代用する術を学びました。参加者からは「これを機に家族と過ごす時間をもっと増やしていきたい」「アウトドアで挑戦したい」などの感想も聞こえ、満足げな表情をにじませていました。



2/24(土) 浦添の「音楽の祭典」開催

市民の演奏交流を通じた音楽文化の振興を目的に、「浦添市民音楽祭2018」がたごホールで開催されました。第1部では、浦添市小中学生音楽コンクールグランプリ受賞者や、浦添市を拠点に活動する音楽団体の演奏が披露されました。市内の景勝地を歌った「浦添八景の歌」が合唱団によって演奏されると、来場者は映し出された写真とともにその歌詞やメロディーに聴き入った様子でした。第2部では琉球交響楽団による絵本の読み聞かせコンサートが公演され、来場者からは「浦添市の音楽レベルの高さに感動しました」といった声が聞かれました。



3/11(日) 開通前西海岸関連道路で イベント開催

開通間近の臨港道路浦添線と浦添北道路で、「夢のかけはしリレーマラソン・夢のかけはしウォーク～西海岸関連道路開通マジカ～」が開催されました。「浦添北道路」は、開通後は自動車専用道路となり、歩いて渡れるチャンスはこのイベントのみ。参加者は、家族や友達、職場の仲間とともに、完成した道路をその足で踏みしめ、眼前に広がる青空に青い海、吹きぬける心地よい海風を受けながら夢のかけはしを満喫したようでした。東日本大震災の発生時刻午後2時46分には、参加者らは一斉に足を止め、1分間の黙とう捧げました。全長4.5キロの道路は3月18日(日)に全面開通しています。



2/16(金) 地域見守りネットワークの 協定を締結

誰もが安心・安全に暮らせるまちづくりの一環として、浦添市、浦添警察署、浦添市社会福祉協議会、その他市内10の団体・企業が地域見守りネットワーク事業の協定を締結しました。この事業は各団体や企業等が、日常業務のなかで郵便物がたまっているなど「ちょっと気になる地域住民の異変」に気づいたとき、浦添市(福祉総務課)または浦添市社会福祉協議会に連絡するというもの。緊急の場合は浦添警察署や浦添消防署に通報を行い、早期対応・地域の見守りに努めます。現在も協力団体の募集をしており、たくさんの団体・企業の参加を呼び掛けています。



2/13(火) 市内の合法民泊の普及を目指す

市内にある空き家・空き店舗などを合法民泊資産として活用し、地域振興を図ることを目的に、浦添市は合法民泊の運営サポートなどを手掛ける株式会社百戦錬磨、とまれる沖縄株式会社と連携協定を締結しました。合法民泊推進のための連携協定は県内初めてで、三者は協力しながらこれまでの沖縄観光イメージとは違った「ディープな暮らし体験」ができる「全く新しい沖縄の滞在スタイル」の提供を目指します。百戦錬磨代表取締役社長上山康博氏は「高いポテンシャルを秘めた浦添市ならではの地域振興に取り組みたい」と力強くコメントしました。